

# NIH Stroke Scale (NIHSS)

氏名：

評価者：

評価日：

年 月 日

項目	検査	解説	スコア	
意識水準	患者の反応から評価する。	覚醒していない場合は「声かけ」「痛み」など刺激強度を上げて評価する。気管内挿管・口腔外傷があっても、患者の反応をみて評価をする。	0：完全覚醒 1：簡単な刺激で覚醒 2：強い刺激で覚醒 3：完全に無反応	
意識レベル 質問	「今月の月名」及び「年齢」を尋ねる。	近似した答えは正当とみなさない。最初の答えのみ評価する。失語症例では言語鍾愛を十分加味して判断する必要がある。	0：両方正解 1：片方正解 2：両方不正解	
意識レベル 従命	「開眼と閉眼」及び「離握手」を指示する。	最初の反応のみ評価する。失語症例ではパントマイムによる反応を評価する。麻痺がある際は非麻痺側で評価する。	0：両方可能 1：片方可能 2：両方不可能	
注視	左右への眼球運動（追視）を指示する。	従命不能例では、頭位変換眼球反射または眼前庭反射により評価する。眼球運動神経の単独麻痺例はスコア1、共同偏視がありどちらも反応しない場合はスコア2とする。	0：正常 1：部分的注視麻痺 2：完全注視麻痺	
視野	片眼ずつ対座法により四分視野の指数を尋ねる。	言語応答できない例では視覚刺激に対する反応や指出しにより評価する。眼疾患により単眼の失明例では、他眼により評価する。	0：視野欠損なし 1：部分的半盲 2：完全半盲 3：両側性半盲	
顔面麻痺	歯を見せるか笑う動作、額に皺をよせてもらう。	口頭ないしパントマイムで命令を行う。意識障害例では痛み刺激を与え評価する（反応がない場合はスコア3とする）。	0：正常 1：軽度の麻痺 2：部分的麻痺 3：完全麻痺	
左腕	10秒数える間、上肢を挙上させる。（臥位45° 座位90°）	麻痺がある例では非麻痺側から検査する。失語例ではパントマイムにより指示する。意識障害例では痛み刺激に対する反応から推定。（除脳硬直などの）反射性の動きはスコア4とする。	0：下垂なし 1：10秒以内に下垂 2：90°の挙上、または保持不可 3：重力に抗して動かない 4：全く動きが見られない	
右腕				
左脚	5秒数える間、下肢を挙上させる。（臥位30°）	麻痺がある例では非麻痺側から検査する。失語例ではパントマイムにより指示する。意識障害例では痛み刺激に対する反応から推定。（除脳硬直などの）反射性の動きはスコア4とする。	0：下垂なし 1：保持できるが、5秒以内に下垂 2：重力に抗して動きがみられる 3：重力に抗して動かない 4：全く動きが見られない	
右脚				
運動失調	鼻指試験、踵脛試験を行う。	両側行い、筋力低下の存在を差し引いても存在するときのみありと評価する。理解力のない例、片麻痺例ではスコア0とする。	0：なし 1：1肢にあり 2：2肢にあり	
感覚	四肢近位部に痛覚刺激を与える。	脳卒中による感覚異常のみを評価する。意識障害例ではしかめ面や逃避反応などにより評価する。	0：正常 1：軽度～中等度の障害 2：重度～完全の障害	
言語	呼称カードにある物の名前、文章カードにある文章を読ませ	最初の答えのみ評価する。視覚障害例では手の中におかれた物の特定・自発言語・復唱により評価、気管内挿管例や発語不能例では書字より評価する。	0：正常 1：軽度～中等度の失語 2：重度の失語 3：無言または全失語	
構音障害	単語カードを復唱させる。	失語症の場合、自発語の構音の明瞭さを評価する。全失語、昏睡などで評価不能の場合はスコア2とする。	0：正常 1：軽度～中等度の障害 2：重度の障害	
消去/無視	両側の2点同時刺激（皮膚）、及び視覚刺激（絵カード）を与える。	両側の2点同時刺激（皮膚）は閉眼して行う。高度の視覚障害があっても皮膚刺激に対する反応が正常であればスコア0、失語があっても両側に注意が向いていればスコア0とする。	0：正常 1：軽度の無視 2：高度の無視	

スコア合計：

/42点